

肺手術術前オリエンテーション DVD の評価

長谷川 朋美¹⁾、白川 翔¹⁾、四方 美希¹⁾、友松 慎弥²⁾
小東 紀子¹⁾、藤井 精子¹⁾、大川 智美³⁾、山本 容子⁴⁾

1) 京都府立医科大学附属病院 B6 号病舎、2) 京都府立医科大学附属病院 C4 号病舎
3) 京都府立医科大学附属病院 A7 号病舎、4) 京都府立医科大学医学部看護学科

キーワード：肺切除術、術前オリエンテーション、周手術期看護、DVD

I. はじめに

術前オリエンテーションは、術後の合併症予防と共に手術に対する患者の理解を深め、不安を軽減する目的で行うものである¹⁾。しかし、近年高齢の手術患者が増加してきており、口頭の説明だけでは、オリエンテーション内容を十分理解出来ない場合がある。また、個々の看護師によるオリエンテーション内容に若干の相違があることも課題であった。術前オリエンテーションについては、映像を用いる方法が取り入れられ、一定の効果が認められている。^{1) - 3)}

そこで昨年度、A 病棟で多くを占める肺手術の術前オリエンテーション用の映像（以下 DVD とする）の作成に取り組み、従来の口頭説明に加え、約 5 分間の DVD を用いた術前オリエンテーションを行い、オリエンテーション内容の統一を図った。

しかし、術後離床に取り組む際、患者から手術の回復過程についての質問が多く聞かれる場面があった。現状のオリエンテーション内容では、術後のイメージがつきにくいと考えられ、DVD の改良の必要性を感じた。

II. 研究目的

現行の DVD を術後のイメージがつきやすく、患者のニーズに沿った内容に改良するために、患者及び看護師を対象とした質問紙調査から評価を得ることである。

III. 研究方法

1. 調査期間：H27 年 10 月～H28 年 3 月
2. 調査方法
 - 1) 対象者：肺手術の術前オリエンテーションを視聴した患者 30 名及び A 病棟看護師 19 名。
 - 2) データ収集方法：肺手術を受けた患者に対し質問紙調査（患者調査）（以下、患者調査とする）を行った。調査項目は、属性、DVD の視聴時間・理解度、不安の変化、手術前に聞きたかったことである。DVD の視聴時間・理解度、不

安の変化については 4～5 段階、手術前に聞きたかったことについては複数回答とした。不安については自由記述も求めた。

また、病棟看護師に対し実施した質問紙調査（看護師調査）（以下、看護師調査とする）では視聴後及び周手術期にみられた患者からの疑問・質問について自由記述を求めた。

3) 分析方法：各調査項目の記述統計量を算出したほか、自由記述については意味の類似性に従いまとめた。

IV. 倫理的配慮

京都府立医科大学附属病院医学倫理審査委員会において審査を受け承認を得た（承認番号 ERB-E-293）。研究参加に同意された場合は、入院時、DVD の視聴を行い、術前術後についてのアンケート調査を行うことを説明した。患者調査は、患者の状態が安定した術後 2 日目以降に行った。データは全てコード化し個人が特定できないよう配慮した上で、本研究以外には使用しないこととした。質問紙およびデータは鍵のかかる場所で厳重に管理した。参加は自由意思であること、回答の有無に関わらず治療上の不利益を被らないこと、参加への撤回はいつでも可能なことを保障した。調査期間中対象となった全患者の同意を得た。看護師に対しても、自由意思の参加、同意しない場合も不利益が生じないこと、参加の撤回はいつでも可能なことを保障した。

V. 結 果

1. 患者調査

回収率・有効回答率は 100%であった。対象者の概要を表 1 に表す。

平均年齢は 59.4 ± 15.7 歳、60 歳以上が 49.5%を占めた。性別では男性 56.7%、女性 43.3%であった。手術回数は初回が 80.0%であった。

図 1 は DVD の視聴時間についての割合を示したものである。「適切」が最も多く 62.1%、次いで「やや短い」24.1%、「やや長い」、「短い」6.9%であった。

次に、DVD の内容の理解では、「できた」、「だいたいでき

表 1 対象者背景 n=30

| | | 人(%) | |
|------|------|------|------|
| 性別 | 男性 | 17 | 56.7 |
| | 女性 | 13 | 43.3 |
| 年代 | 20歳代 | 1 | 3.3 |
| | 30歳代 | 4 | 13.2 |
| | 40歳代 | 3 | 9.9 |
| | 50歳代 | 7 | 23.1 |
| | 60歳代 | 6 | 19.8 |
| | 70歳代 | 6 | 19.8 |
| | 80歳代 | 3 | 9.9 |
| 手術回数 | 初回 | 24 | 80.0 |
| | 2回目 | 3 | 10.0 |
| | 3回目 | 3 | 10.0 |

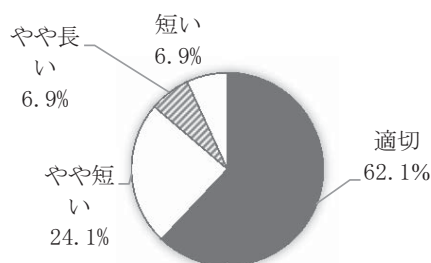


図 1 DVD の視聴時間 n=30

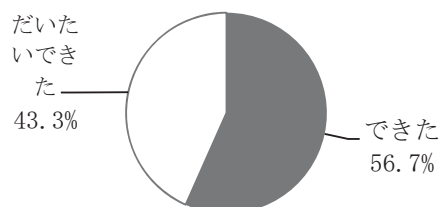


図 2 DVD の内容の理解 n=30

た」を合わせると 100%であった (図 2)。また、DVD 視聴後、手術に対する不安の変化で最も多かったのは、「変わらない」50.0%であり、次いで「やや軽減」33.3%、「軽減」16.7%であった。「やや増強した」、「増強した」は 0%であった (図 3)。不安の変化の理由について、「聞くのと視聴するのでは全く違い不安がとれた」、「DVD を視聴することで、手術までにすべきことが分かり、気分を楽に過ごせた」、「手術に対する緊張が少しほぐれた」、「DVD を見て術前に必要な呼吸訓練や、術後使用する器械についてわかった」等の回答が得られた。

図 4 は、手術前に聞きたかったこと (複数回答) の割合である。40%はいずれの項目の選択も見られなかった。「痛み」が 40.0%、「点滴や心電図、尿道カテーテル留置期間」

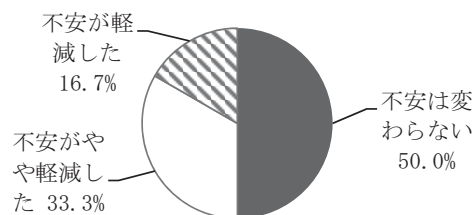


図 3 不安の変化 n=30

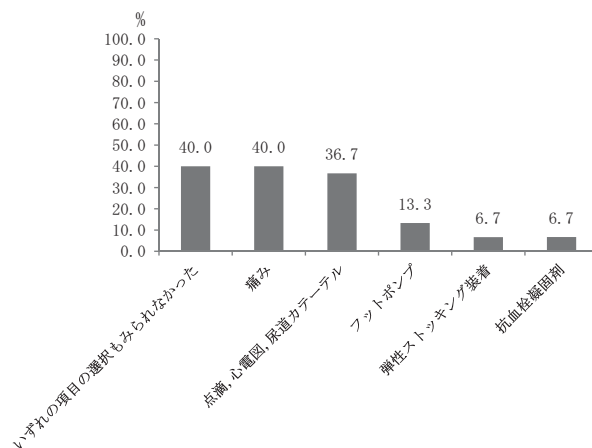


図 4 手術前に聞きたかったこと n=30

表 2 患者からの疑問・質問 n=19

| | 人数 | % |
|--------------|----|------|
| 抗血栓凝固剤投与期間 | 6 | 31.5 |
| バストバンド装着期間 | 10 | 52.6 |
| ボトルブロー施行期間 | 10 | 52.6 |
| 弾性ストッキング装着期間 | 14 | 73.6 |

36.7%、「フットポンプ」13.3%、「弾性ストッキング装着」、「抗血栓凝固剤期間」6.7%であった。

2. 看護師調査

回収率・有効回答率は 100%であった。対象者の概要は、全員が病棟スタッフ、性別は男性 15.8%、女性は 84.2%であった。

表 2 は、患者からの疑問・質問として記載された内容をまとめたものである。「弾性ストッキング装着期間」が最も多く 73.6%が記載していた。次いで「バストバンド装着期間」52.6%、「ボトルブロー施行期間」52.6%、「抗血栓凝固剤投与期間」31.5%であった。

VI. 考 察

1. 肺手術の周手術期における患者のニーズ

今回の調査から、肺手術の周手術期に看護師が患者から質

問される内容は、弾性ストッキングやバストバンド装着期間等の処置に関する事であったのに対し、患者が手術前に聞きたかったことは痛みについてであることが明らかとなった。術後疼痛を実感したことにより、事前に疼痛についての情報を得ておきたかったと思われる。患者には、処置内容についてとともに、潜在的なニーズとして痛みへの対処も存在すると推察する。

また、DVD の視聴により半数が程度の差はあれ「不安が軽減した」と答えていた。DVD は、不安の軽減としての機能を果たす可能性があることが示されたが、「不安は変わらない」と答えた患者も半数であった。聞くのと視聴するのは全く違い不安がとれた、手術までにすることがわかり気分を楽に過ごせた、など、映像を用いてのオリエンテーションにより、術前術後のイメージ作りに大いに有効であったと言える。一方で、全ての患者の不安が軽減される万全なものではなく、改良の必要性が示唆された。

2. DVD 改良の方向性

DVD の内容の理解については、全員が「できた」、「だいたいできた」としており、患者にわかりやすいものであったと評価する。改良にあたっては、引き続き理解しやすい内容を心がける。また、視聴時間は、「適切」と「やや短い」が 8 割であったため、若干の内容追加が可能であろう。

今回患者のニーズとして明らかとなった、処置内容や疼痛緩和の内容を加えることで、不安の軽減に努めていきたい。具体的には、現在、術後 PCA (Patient Controlled Analgesia)「自己調節鎮静法」が導入されているが、実際患者自身が操作していることが少ないのが現状である。術前に PCA の使用方法について情報提供できていないことも要因のひとつであると考えられる。PCA の使用方法を DVD に追加し、患者指導を行うことで、痛みに対しての不安が少なからず軽減できるのではないかと考える。

また、点滴や尿道カテーテル留置期間、バストバンド装着期間などの装着物について質問の多かった事項については、術後実際に装着している場面を DVD に取り入れる。加えて、患者パンフレットに留置期間、装着期間を明記することで患者の理解を促進させたいと考える。

最後に、本調査から肺手術を受ける患者の半数近くが 60 歳以上であった。また、初回手術を 80% が占めている。したがって、DVD を補足するために、看護師による口頭でのオリエンテーションも重要と考えるため、引き続き実践していきたい。

VII. 結 論

現行の DVD の改良を目指し、患者と看護師に調査を行った結果、看護師が患者から質問される内容は、弾性ストッキングやバストバンド装着期間等の処置に関する事であったの

に対し、患者が手術前に聞きたかったことは痛みについてであることが明らかとなった。また、DVD は、不安の軽減としての機能を果たす可能性があることが示された。

今後は、処置内容や疼痛緩和の内容を加えることで、不安の軽減に努めていきたい。

謝辞

本研究にご理解頂き貴重な時間を割いてご協力くださいました患者様、看護師の皆様へ深く感謝致します。

VIII. 引用文献

- 1) 藤井真奈美、岸本真理子、山根美香、他：術前オリエンテーションによる不安の軽減 DVD 作製を通して、日本看護学会論文集 成人看護 I P.40：6-8、2009
- 2) 鹿田美奈子、佐藤綾子、高山陽平、他：手術前オリエンテーションに DVD を導入して、肺癌 54 (5)、P.659、2014
- 3) 藤田美香、伊藤敏子、畑中えり子：DVD を活用した術前オリエンテーションの検討と課題、日赤医学 64 (1)、P.220 2012
- 4) 出月康夫：改訂版 / 全科術前・術後マニュアル 2 (1)、小学館 P.9-11、1998

